

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標	
「進取・敢為・独創」の校是のもと、高い知性を育み、一人ひとりの個性を伸張する学習を展開し、自由な発想と果敢な実行力をもったチャレンジ精神を涵養し、未来社会の一員として調和のとれた豊かな感性を磨くことで、21世紀の国際社会に貢献し活躍できるグローバルリーダーを育てる。	
目指す子ども像	
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題をみつけ、深く、広く考える生徒 ・自らの学びを、実践、実行につなげる生徒 ・社会に目を向け、他者を大切にする生徒 	
目指す教職員像	
<ul style="list-style-type: none"> ・常に、目の前の生徒の姿を、自らの指導の結果として真摯に受けとめる教師。 ・日々の指導において、生徒の内発的動機を引き出すコーチングを心懸ける教師。 ・自己及び外部評価を通して、主体的な自己変革に努める教師。 	
目指す学校像	
<ul style="list-style-type: none"> ・学力および社会人を確実にステップアップさせる、充実の中高一貫教育校。 ・時代を拓きグローバルに活躍する、未来社会のリーダーを育成する中高一貫教育校 	

2 学校経営方針

<p>(1) 全ての教育活動の基本は「授業」である。</p> <p>生徒が輝く授業の実現を目指し、教科の学力実態に最大限の注意を払いつつ、授業を通じて探求型学力を涵養しながら、生徒一人一人の自己実現に向けた教育活動を展開する。その上で、生徒が社会の一員として積極的に未来社会を創造する人材へと成長するよう、学力分析に関する情報を積極的に日々の指導に活かし、生徒一人ひとりの進路保障を最重点課題とし、進路実現に必要な習得型学力を授業を通じて向上させる。</p> <p>(2) 社会で輝く人材の育成をめざして【3つのC】</p> <p>学校教育の範疇にとどまることなく、常に社会との関わりを意識した取組 (Collaboration コラボレーション能力) を充実させ、人とつながる力 (Communication コミュニケーション能力) を有し、(Challenge チャレンジ) 精神を備え、自己決断・自己責任能力を有した人材となるため、授業や学校行事・生徒の諸活動を通して豊かな感性を育て、バランスのとれた人格の形成を図る。</p> <p>(3) 中高一貫校としての特色を活かした指導</p> <p>併設型中高等一貫校としての特色を活かし、6年間を見据えた教育活動を積極的に推進するとともに、中高一貫教育推進会議が中心となって、更なる授業研究及びスーパーグローバルハイスクール (SGH) 校の附属中学校としてふさわしい特色ある教育活動を展開する。</p> <p>(4) 効率的・効果的な学校運営</p> <p>教職員ができる限り生徒の教育に直接あたる時間を確保するため、効果的・効率的な校務運営を心がけ、会議・連絡・事務処理等の時間短縮を図る。教職員のワークライフバランスを考え、お互いの年齢・経験・諸条件を十分配慮した上での働き方が可能な職場づくりを目指す。</p>

3 学校教育の計画

(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

- ・全ての教育活動の基本は「授業」であり、授業を通して確かな学力を身に付けさせる指導、特に授業を通して、生徒と真のコミュニケーションを図る。
- ・中高一貫 6 年間の教育における系統的・発展的な教育課程を展開する。特に、中上位層の生徒の意欲を喚起する学習プログラムの工夫を図る。
- ・生徒の内発的動機を喚起し、自ら学習に意欲的に取り組む生徒の育成を図る。

具体的な取組

- ・中高一貫 6 年間の教育における効果的な教育課程を研究し、中高教員が連携を密にして学習プログラムを工夫したり、各種テスト等のデータ分析から得られた知見をもとに、中上位層の生徒の学習意欲を引き出す。
- ・サテライト学習（自学自習の時間）の内容を充実させる。具体的には、まず生徒自身に自らの課題について振り返らせ、学力向上に必要な目標設定を促した上で、自主的に学習するプログラムを展開する。
- ・主体的、協働的な学習を積極的に取り入れることにより、生徒の「対話的な学び」及び「主体的な学び」を推進する。
- ・各授業は、予習・復習などの家庭学習を前提として行うことを教職員自らが再認識するとともに、生徒にも徹底させる。
- ・教員の教科指導のスキル向上を図るための研修を実施し、生徒自らが学習に意欲的に取り組むための指導方法の研究を推進する。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- ・社会で通用する規範意識の育成を図る指導を行う。
- ・生徒一人ひとりの豊かな心を育み、社会と関わり、他者とつながるための実践的な力を育成する。

具体的な取組

- ・日々の様々な場面における「挨拶指導」を全教職員が意識的に実践し、道德教育の根幹に据える。
- ・生徒会や委員会活動、学級での班活動などを積極的に推進し、協働活動における個々の役割を明確化・評価することで、生徒一人ひとりの自己有用感を高める取組をおこなう。
- ・生徒が望ましい人間関係を築き、集団の一員として協働する態度を育成するとともに学習や健康、安全に対する意識を高め、場と状況を考え、適切な意志決定を伴った行動ができるように中学生としての意識改革を図る。
- ・教職員が日々の教育実践における学習規律に対する重要性を深く理解し、全ての学習場面において、生徒が自律的に行動するための指導・支援をおこなう。
- ・人権意識を高めるため、本校の集団教育のあらゆる場面を実践的な人権教育の場として意識し、いじめをはじめとする人権侵害を絶対に許さないという強い姿勢を持って、人権文化の確立を図る。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- ・ 自己の健康状態と生活実態を把握し、自ら健康課題を見つけ解決しようとする態度を育成する。
- ・ 学校教育全体を通して、安全指導・防災教育・防災管理の充実を図る。

具体的な取組

- ・ 養護教諭、担任が中心となり、生徒自らが継続的な健康観察を実施させることによって、自他の健康に興味・関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。
- ・ 全教職員が生徒の心身の健康状態の把握に努め、さまざまな場面で共通理解を図り、健康で安全な学校生活を送ることが出来るように支援する。
- ・ 避難訓練や安全教育を実施し、災害発生時等において、生徒自らが危険に際して命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成する。